



システム構成／環境構築ガイド (AnsibleTower driver 編)

astroll システム 環境構築マニュアル

— 第1.0版 —

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- ・ LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hatは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Apache、Apache Tomcat、Tomcatは、Apache Software Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Oracle、MySQLは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ MariaDBは、MariaDB Foundationの登録商標または商標です。
- ・ Ansibleは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
- ・ AnsibleTowerは、Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。

なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

astrollの正式名称は「astroll IT Automation」になります。

目次

1	はじめに	3
2	機能	4
3	システム構成	5
4	システム要件	6
5	AnsibleTower driver — AnsibleTower 共有ディレクトリ準備	7
6	AnsibleTower 必要リソース準備	8
6.1	[プロジェクト]新プロジェクト作成前処理	8
6.2	[プロジェクト]プロジェクト削除後処理	9
6.3	[インベントリ]ローカルアクセス	10
6.4	[認証情報]ローカルアクセス	10
6.5	アプリケーション	10
6.6	[ユーザー]トークン	10

1 はじめに

本書では、astroll で AnsibleTower オプション機能（以下、AnsibleTower driver）として運用する為のシステム構成と環境構築について説明します。

astroll AnsibleTower driver を利用するにあたっては、astroll 基本機能が構築済であることが前提です。astroll 基本機能の構築に関しては、「環境構築ガイド（基本編）」をご覧ください。

・astroll 基本機能

マニュアル 項目	ステップ ファースト ガイド	インストール マニュアル	コンフィグレーション ガイド	システム構成 環境構築ガイド	利用手順 マニュアル	メニュー作成ガイド	リファレンス マニュアル	サイジング ガイド
システム構成	○			◎				
サイジング								◎
動作環境（インストール前）	○			◎				
インストール		◎						
コンフィグレーション			◎					
利用手順	○				◎			
メニュー作成						◎		
リファレンス							◎	

※○：概要説明 ◎：詳細説明

・オプション機能

マニュアル 項目	ステップ ファースト ガイド	インストール マニュアル	コンフィグレーション ガイド	システム構成 環境構築ガイド	利用手順 マニュアル	メニュー作成ガイド	リファレンス マニュアル	サイジング ガイド
● システム構成				◎				
● サイジング								
● 動作環境（インストール前）				◎				
● インストール		◎						
● コンフィグレーション								
● 利用手順					◎			
● メニュー作成								
● リファレンス								

※○：概要説明 ◎：詳細説明

2 機能

AnsibleTower driver は以下の機能を提供します。

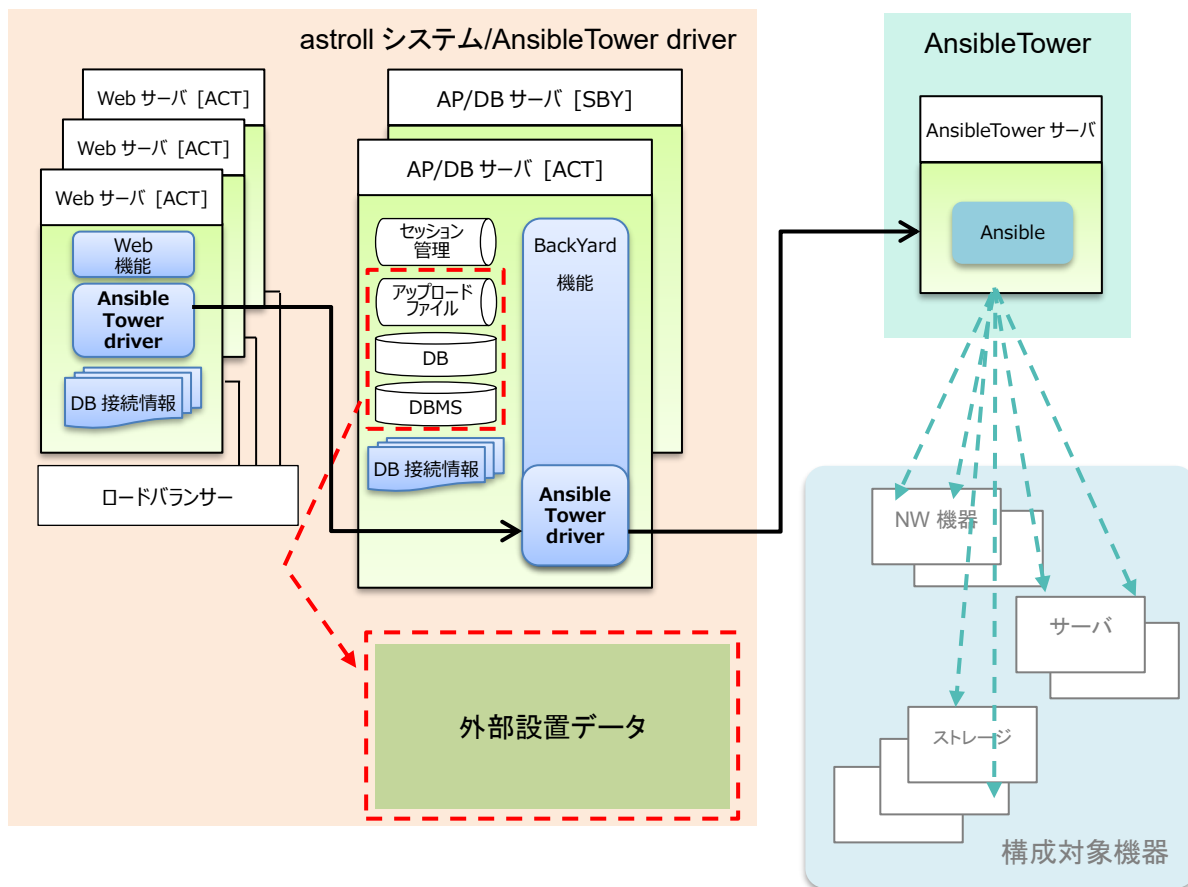
表 1 機能名

No	機能名	用途	WEB コンテンツ	BackYard コンテンツ
1	AnsibleTower driver	astroll から AnsibleTower を介してサーバ、ストレージ、ネットワーク機器の構成管理を行う	○	○

3 システム構成

AnsibleTower driver のシステム構成は、astroll システムと同じです。

※ ここでは省略した構成図を記載します。詳しくは「環境構築ガイド(基本編)」を参照してください。



4 システム要件

AnsibleTower driver は astroll システムのシステム要件に準拠するため、「環境構築ガイド(基本編)」を参照してください。ここでは BackYard の必要要件を記載します。

●BackYard

表 4-1.AnsibleTower BackYard システム要件

パッケージ	バージョン	注意事項
PHP	5.6	

表 4-2.AnsibleTower BackYard 必要 Linux コマンド

コマンド	注意事項
zip	

表 4-3.AnsibleTower BackYard 必要外部モジュール

外部モジュール	バージョン	注意事項
Spyc.php	0.6.2	

5 AnsibleTower driver – AnsibleTower 共有ディレクトリ準備

AnsibleTower driver と AnsibleTower サーバが共通で参照するディレクトリを準備してください。

AnsibleTower driver インストールおよび AnsibleTower 構築後、この共有ディレクトリを astroll システムに登録する必要があります。「利用手順マニュアル_astroll_AnsibleTower-driver」の「インターフェース情報」を参照し、登録を行ってください。

6 AnsibleTower 必要リソース準備

AnsibleTower にプロジェクト、インベントリ、認証情報をあらかじめ登録しておく必要があります。

表 6-1.AnsibleTower 必要リソース

種類	用途	名前	説明
プロジェクト	新プロジェクト作成 前処理	ita_executions_prepare_build	AnsibleTower のプロジェクトのベースパスに対して、共有ディレクトリで受け渡されるロール構造のディレクトリをコピーする
プロジェクト	プロジェクト削除 後処理	ita_executions_cleanup	上記“新プロジェクト作成前処理”で作成したディレクトリを削除する
インベントリ	ローカルアクセス	ita_executions_local	上記プロジェクトの処理を AnsibleTower のローカルで作業するためのインベントリ情報
認証情報	ローカルアクセス	ita_executions_local	上記プロジェクトの処理を AnsibleTower のローカルで作業するための認証情報
アプリケーション	認証アプリケーション	o_auth2_access_token	Astroll から AnsibleTower に RestAPI で接続する場合の認証用のアプリケーション情報
ユーザー	トークン	o_auth2_access_token	Astroll から AnsibleTower に RestAPI で接続するのに使用する接続トークン

6.1 [プロジェクト]新プロジェクト作成前処理

- AnsibleTower 設定値
 - ・ 名前 : ita_executions_prepare_build
 - ・ 組織 : Default
 - ・ SCM タイプ : 手動(Machine)
 - ・ PLAYBOOK ディレクトリー : ita_executions_prepare_build

- AnsibleTower サーバ内ディレクトリ構成
プロジェクトルート(デフォルト: /var/lib/awx/projects/)

```
└─ ita_executions_prepare_build/  
    └─ site.yml  
        └─ roles/  
            └─ copy_materials_role/  
                └─ tasks/  
                    └─ main.yml
```

- site.yml 記述内容

```
---  
- name: copy matetials from data_relay_storage to projects  
  gather_facts: no  
  hosts: all  
  roles:  
    - copy_materials_role
```

- main.yml 記述内容

```
---
- name: copy_materials
  copy:
    src: "{{ if_info_data_relay_storage }}/{{ execution_no_with_padding }}/in/"
    dest: "/var/lib/awx/projects/ita_executions_{{ execution_no_with_padding }}"
```

6.2 [プロジェクト]プロジェクト削除後処理

- AnsibleTower 設定値

- ・ 名前 : ita_executions_cleanup
- ・ 組織 : Default
- ・ SCM タイプ : 手動(Machine)
- ・ PLAYBOOK ディレクトリー : ita_executions_cleanup

- AnsibleTower サーバ内ディレクトリ構成

プロジェクトルート(デフォルト: /var/lib/awx/projects/)

```
└─ ita_executions_cleanup/
   └─ site.yml
      └─ roles/
         └─ rmdir_role/
            └─ tasks/
               └─ main.yml
```

- site.yml 記述内容

```
---
- name: remove local directory
  hosts: all
  gather_facts: no
  roles:
    - rmdir_role
```

- main.yml 記述内容

```
---
- name: rmdir_local
  file:
    path: "/var/lib/awx/projects/ita_executions_{{ execution_no_with_padding }}"
    state: absent
```

6.3 [インベントリ]ローカルアクセス

- AnsibleTower 設定値(インベントリ)
 - ・ 名前 : ita_executions_local
 - ・ 組織 : Default
- AnsibleTower 設定値(インベントリ内-ホスト)
 - ・ ホスト名 : localhost
 - ・ 変数 :

```
ansible_ssh_host: localhost
```

6.4 [認証情報]ローカルアクセス

- AnsibleTower 設定値
 - ・ 名前 : ita_executions_local
 - ・ CREDENTIAL TYPE : Machine
 - ・ ユーザー名 : root
 - ・ SSH PRIVATE KEY : ※AnsibleTower サーバの”/root/.ssh/id_rsa”の内容を貼り付ける

6.5 アプリケーション

- AnsibleTower 設定値
 - ・ 名前 : o_auth2_access_token
 - ・ 組織 : astroll 向けの組織を用意し設定して下さい。Default でも構いません。
 - ・ 認証付与タイプ : リソース所有者のパスワードベース
 - ・ クライアントタイプ : 機密

6.6 [ユーザー]トークン

- AnsibleTower 設定値
 - ・ APPLICATION : o_auth2_access_token
 - ・ SCOPE : 書き込み

AnsibleTower のログインに使用するユーザーでログインしておく必要があります。
生成されたトークンは、AnsibleTower コンソールのインタフェース情報の接続トークンに設定する必要があります。